

【気づき・回答】

【問題 1】 C→D→A→E→B

文章全体の起承転結を読み解くことが重要です。

その上で、一番最初に来る文節を見つけます。そこで、この四つの文章の文頭に注目してみましょう。

A：そのため、

B：また、

C：ことし、

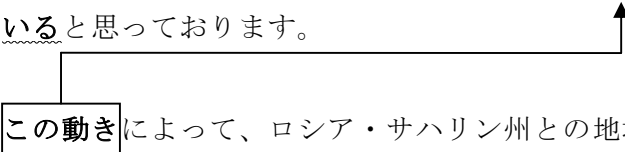
D：そして、

E：この動きによって、

かかりのない文章は「ことし、」から始まるCの文章以外にはありませんので、まずはCを置きます。次にポイントとなるのは、Eの文章の「この動きによって」という箇所です。「この動き」とは一体何を指すのかを探し出します。この場合では、「旭川では積極的に取り組みが進められている」という部分に当たることがわかりますので、A→Eという順序が導き出されます。

A：そのため、来年度の物産展の成功に向けた取り組みを旭川市では積極的に進められていると思っております。

E：この動きによって、ロシア・サハリン州との地域間交流のさらなる促進が図られると思います。



残りのBとDの文章は、「また」「そして」と前文を受ける接続詞のある文章という意味では同じですが、Dの文章は、事象の説明にとどまっていることがわかります。

B：また、道北の魅力発信、地域の活性化に結びつくのではないかと考えています。

(結論を述べている文章)

D：そして、1月28日、旭川でロシア・サハリン海外進出セミナーも開催されているところでございます。

(事象を述べている文章)

そこで、同じく事象について述べているCの文章と結びつくこととなり、C→Dと続くことがわかります。また、Bの文章は、結論を述べていますので、先ほどのEの文章に続くこととなります。

よって、「C→D→A→E→B」という順に並ぶこととなります。

【気づき・回答】

【問題2】 H→F→D→G→B→A→E

この問題では、いかに大事なキーワードを見つけることができるかがポイントとなります。例えば、「天塩川物語」「ワークショップ」「ツアー」「プロモーション」など、各文章に関連のある語句がちりばめられています。しかし、こうした語句に気をとられてばかりいては、正解には近づきません。ここで一番重要となるのは、時系列となります。

そこで、それぞれの文章に時間をあらかず語句をピックアップしてみましょう。

- A：来年度は、この再発見ツアーのほかに、夏の移住モニターツアーを実施する予定でございませう。
- B：さらに、3月には、今年度の取り組みを締めくくるフォーラムを開催する予定でありまして、ワークショップで抽出されました地域の魅力を披露するほかに、この魅力を盛り込んだ住民再発見ツアーを発表し、来年度の実施に向けた募集を開始する予定にしております。
- C：北海道の地域づくり総合交付金と再生加速事業を活用し、平成24年度、25年度の2カ年の事業を現在実施しているところでございませう。
- D：そして、11月から12月にかけて、13の市町村を四つのエリアに分け、この地域に移住された方や地域おこし協力隊の皆さんや地域づくりに熱心な皆様方に集まっていただき、ワークショップを開催し、地域の魅力を語り合っていたく活動を行いました。
- E：また、FMのラジオ番組「天塩川物語」の放送も引き続き行いますし、首都圏でのプロモーションも引き続き実施していく予定であります。
- F：また、昨年秋には、首都圏での天塩川地域のプロモーション活動を2回にわたり実施しました。
- G：今後は、首都圏でのプロモーション等でも要望させていただきましたが、2月末にこの地域に移住を希望する皆さんへのモニターツアーを実施する予定です。
- H：まず、地元のFM放送局のFM名寄で毎月の最終金曜日に30分のラジオ番組「天塩川物語」を放送しております。

これを時系列の順序で並べかえます。昨年秋という語句には、具体的な月日が示されているわけではありませうが、11月から12月よりも前だということを推測します。すると、「F→D→G→B→A」が完成します。しかし、Fの文章は、「また」という接続詞がありますので、初めの文章にはふさわしくありません。そこで、C、E、Hの文章の中から最も適切なものを探し出すわけですが、「まず」という語句のあるHが適当であることがわかります。最後に、関連語句の「天塩川物語」が入っているEの文章をどこに置くとありますが、「予定である」という意味から未来のことを指していると推察し、一番最後に当てはまり、「H→F→D→G→B→A→E」となります。

【気づき・回答】

【問題3】 L→G→F→H→M→A→I C→K→D→J→E→B

まずは、それぞれの文章を二つの話題に分ける必要があります。そこで、話の主題となっている語句を探し出し、「定住対策」と「花嫁対策」を見つけ出しましょう。この大きな主題に結びつく語句から2文を選別します。

（定住対策関連文）

- A：そこで、土地を最初から買うことは難しい状態ではありますが、その入り口として、農業をやってみたいという方を農村に定住させることが重要ではないかと考えてございます。
- F：そのため、市街化区域での宅造が進み、鷹栖町では人口を維持しているのですが、農村部の過疎化が進み、宅地だけが残ってしまい、それに手をつけることができません。
- G：本町では、昭和45年に、市街地整備と農業の保全を目的として、都市計画区域を設定させてもらい、線引きしてございます。
- H：なぜなら、農家の方ではないと宅地の増改築や新築ができない法律があり、ニーズにマッチした定住対策ができない現状になっているからです。
- I：そういうことから、定住対策として何かいい方法はないかと考えております。
- L：農村部における定住対策についてお話をしたいと思います。

（花嫁対策関連文）

- C：農業後継者における花嫁対策についてです。
- J：ですから、旭川と愛別と鷹栖の三つの市町で協議会を持ち、花嫁対策をとっております。
- K：未婚化、晩婚化が進んできているのですけれども、美瑛町や東川町などは観光地のためにイメージがすごくいいので、花嫁対策が進むと思うのです。

（どちらともとれない文）

- B：圏域としては魅力的であるとも考えられますが、小さい地域で考えると行き詰っている部分がありますので、いいアドバイスをしていただければ農業を推進できる地域になるのではないかと思います。
- D：でも、鷹栖町の場合は水田が中心ですから、農業に魅力を感じてもらえない部分があります。
- E：ただし、道外から募集はしているのですが、人数もだんだん少なくなっている状況でございます。
- M：しかし、国営農地再編整備事業で水田が大きくなり、若い人たちの中には戻ってきて農業をしたいと言う方もいらっしゃるのです。

【気づき・回答】

次に、項目出しの文章であるCとLを文頭に置きます。

どちらともとれない文を除いた段階で、話の流れが合うように並びかえていきます。

(定住対策関連文)

L：農村部における定住対策についてお話をしたいと思います。

G：本町では、昭和45年に、市街地整備と農業の保全を目的として、都市計画区域を設定させてもらい、線引きしてございます。

F：そのため、市街化区域での宅造が進み、鷹栖町では人口を維持しているのですが、農村部の過疎化が進み、宅地だけが残ってしまい、それに手をつけることができません。

H：なぜなら、農家の方ではないと宅地の増改築や新築ができない法律があり、ニーズにマッチした定住対策ができない現状になっているからです。

A：そこで、土地を最初から買うことは難しい状態ではありますが、その入り口として、農業をやってみたいという方を農村に定住させることが重要ではないかと考えてございます。

I：そういうことから、定住対策として何かいい方法はないかと考えております。

(花嫁対策関連文)

C：農業後継者における花嫁対策についてです。

J：ですから、旭川と愛別と鷹栖の三つの市町で協議会を持ち、花嫁対策をとっております。

K：未婚化、晩婚化が進んできているのですけれども、美瑛町や東川町などは観光地のためにイメージがすごくいいので、花嫁対策が進むと思うのです。

定住対策関連文は、ある程度、起承転結がはっきりしていますが、花嫁対策関連文のJとKは、この段階ではどの順番かはわかりません。しかし、結論部分が欠けていることから、どちらともとれない文にストックしてあった結論文であるBを花嫁対策関連文のグループに入れます。

次に、Kの文章の「美瑛町や東川町は」とDの文章の「鷹栖町の場合は」が比較になっていることを見つけ、そうした背景から協議会を持つこととしたという流れとなり、次のように並べかえます。

(花嫁対策関連文)

C：農業後継者における花嫁対策についてです。

K：未婚化、晩婚化が進んできているのですけれども、美瑛町や東川町などは観光地のためにイメージがすごくいいので、花嫁対策が進むと思うのです。

D：でも、鷹栖町の場合は水田が中心ですから、農業に魅力を感じてもらえない部分があ

【気づき・回答】

ります。

J：ですから、旭川と愛別と鷹栖の三つの市町で協議会を持ち、花嫁対策をとっております。

B：圏域としては魅力的であるとも考えられますが、小さい地域で考えると行き詰っている部分がありますので、いいアドバイスをしていただければ農業を推進できる地域になるのではないかと思います。

ここで、一番のポイントとなるのが、起承転結の「転」です。どちらの文にもこの部分が欠けています。そこで、どちらともとれない文を改めて読み解いてみます。

E：道外から募集はしているのですが、人数もだんだん少なくなっている状況にございます。

ここでのポイントは、Eの文章の「募集」であり、何を募集しているかを考えます。今回の話は、定住対策と花嫁対策ですので、ここでは花嫁を募集しているとわかります。

そのため、Mの文章を定住対策の転の部分に入れ込み、改めて順序を整理します。

(定住対策関連文)

L：農村部における定住対策についてお話をしたいと思います。

G：本町では、昭和45年に、市街地整備と農業の保全を目的として、都市計画区域を設定させてもらい、線引きしてございます。

F：そのため、市街化区域での宅造が進み、鷹栖町では人口を維持しているのですが、農村部の過疎化が進み、宅地だけが残ってしまい、それに手をつけることができません。

H：なぜなら、農家の方ではないと宅地の増改築や新築ができない法律があり、ニーズにマッチした定住対策ができない現状になっているからです。

M：しかし、国営農地再編整備事業で水田が大きくなり、若い人たちの中には戻ってきて農業をしたいという方もいらっしゃるのです。

A：そこで、土地を最初から買うことは難しい状態ではありますが、その入り口として、農業をやってみたいという方を農村に定住させることが重要ではないかと考えてございます。

I：そういうことから、定住対策として何かいい方法はないかと考えております。

(花嫁対策関連文)

C：農業後継者における花嫁対策についてです。

K：未婚化、晩婚化が進んできているのですけれども、美瑛町や東川町などは観光地のためにイメージがすごくいいので、花嫁対策が進むと思うのです。

【気づき・回答】

- D：でも、鷹栖町の場合は水田が中心ですから、農業に魅力を感じてもらえない部分があります。
- J：ですから、旭川と愛別と鷹栖の三つの市町で協議会を持ち、花嫁対策をとっております。
- E：ただし、道外から募集はしているのですが、人数もだんだん少なくなっている状況でございます。
- B：圏域としては魅力的であるとも考えられますが、小さい地域で考えると行き詰っている部分がありますので、いいアドバイスをしていただければ農業を推進できる地域になるのではないかと思います。